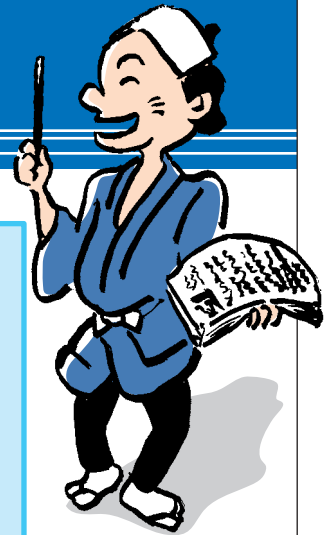


はらじゅくかわら版



独立行政法人 国立病院機構 横浜医療センターの理念

私たちは、患者様の人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける患者様中心の医療を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ地域完結型医療を目指します。

私たちは、健全な病院運営を心懸け、患者様がより良い診療が受けられ、地域で選ばれる病院になるべく日々努力していきます。



第6号 目次

今、私たちがなすべきこと	1
地域医療連携	
病診連携施設紹介	2
呼吸器外科紹介	3
局所麻酔法を用いた鼠径ヘルニアの手術について	
地域医療連携室から	4
お知らせコーナー	
医療安全管理室 ー確認会話ー	6
検討会・研究会の開催	
研修医紹介	7
看護部だより	8
ー院内感染防止委員会の動きー	
学校だより	9
シリーズ	
時節の病気（今号は話題の病気）	10
ー生活習慣病についてー	

職場紹介/小児科・薬剤科	11
栄養相談/保険機能食品No2	12
行事等紹介	
第5回救急・災害医療フェア	13
患者数の動向/編集後記	14
外来診療担当表/表紙	15

発行 月：平成16年10月
発行 行：独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター
 広報委員会
発行責任者：高橋 俊毅
住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
電 話：045-851-2621
F A X：045-851-3902
U R L：<http://www.hosp.go.jp/yokoham/>

今、私たちがなすべきこと

看護部長 阿津公子



9月も中旬に入り、朝夕は凌ぎやすくなりましたが、日中はまだまだ残暑が続いています。

それでも院内のあちらこちらに今年も真っ赤な「曼珠沙華」が咲き始めました。

昨年のような冷夏の時も、今年のように日照り続きの夏でも必ずこの時期を忘れずに真っ先に秋の訪れを告げてくれる真紅の花には感動します。

今年の夏は大変な猛暑でした。夜も気温は下がらず熱帯夜の記録更新が続きました。

安全対策上、窓の開放も十分できない病室で眠れぬ夜を過ごされた患者さまも多かったことと思います。

良質の睡眠がどれほど重要な意味があるかを知っていながら、快適な睡眠環境が提供できず、心苦しい夏でした。

私が看護師になったのはもう38年前になります。当時はもちろんエアコン等はどこにもなく暑い夜は患者さまの体の清拭と更衣に汗まみれになり、そしてできるだけ音をたてないようにアイスピックで氷塊を砕き、ゴツゴツした氷の角をとるために水道水を適量入れた氷枕や氷嚢をお作りし、涼しさを感じて頂くことが精一杯の睡眠を整えるための援助でした。

まもなく画期的な製氷器が登場し、その便利さに歓喜したことを覚えています。

以来、医療現場は機械化と業務のスピードアップ化が進み、また日本人の平均寿命の伸びとともに医療環境に大きな変化のうねりが起こり始めました。

医療技術は格段に進歩し、病院は電動ベッドやモニター類の導入等で、私達の手のぬくもりや五感を研ぎ澄ませた観察力さえ、ある部分で機械が代行する時代となりました。

私達の仕事も当然、患者さまの安全・安楽を基本に置きながらも高度化・専門分化・機械化し続ける現場への素早い適応が求められてきました。

昨今はその結果でしょうか？あるいは副作用とでも言うのでしょうか？「人間対人

間」の仕事において最も必要なコミュニケーション能力が、個人の資質から、また組織的にも低下してきたと感じるのは私だけでしょうか。それに伴い、患者さまとの「心の距離」が開きはじめたのではないかと痛感させられるような現実を、患者さまやご家族から厳しくご指摘をいただくことが増えてきました。

医療環境の大きな変化は、当然患者さまの環境の変化でもあり、疾病の治癒にとどまらず安全や安心、個人としての尊厳などを求められるのは当然のことと思います。

私達には患者さまの声を真摯に受け止め、看護の本質、看護の理念に立ち戻って、日々の仕事の改善を続けていく使命があります。

昨年8月、独法移行前の患者満足度調査が全国一斉に行われ、その報告書から当院の評価は全国レベルからかなり低い位置にあることがわかりました。(恥ずかしいです！)

患者さまからの信頼を回復し、満足度を高めていくためには1面にも掲げている当院の理念の実現に向かって1人1人の職員が行動を起こすこと、清潔な環境、美しい病院を作ること、そして思いやりにあふれたやさしい職員集団に成長することだと思います。

当院の今年度の大きな目標の一つに、病院機能評価受審があります。

各領域のプロジェクトチームが現状を評価し、様々な改善計画を立て準備に入りました。

当然合格を目指しますが、合格が最終目的ではなく、古めかしい病院でも「普通の病院」に変わること、地域の皆様から「選んで頂ける病院」になるための通過点として位置づけています。がんばりましょう！

今年度も中間地点です。1人1人の目標達成状況はいかがでしょうか？

曼珠沙華のように「その時」に精一杯輝いていたいものです。

地域医療連携

病診連携施設紹介

さとう内科 クリニック



佐藤院長先生（中央）

1999年12月、戸塚区原宿、大正小学校裏に開業させていただきました。大学を卒業した時に恩師より「病気を見る医者ではなく、病人をまるごと診る医者になりなさい。」と言われました。不肖ながら、その言葉を大切に、人間全体を診られる医師を目指して努力していきたいと思っています。

開業以来、横浜医療センターには大変お世話になっています。すぐ近いこともあり、毎日のようにいろいろな患者さんを各科にお願いしています。横浜医療センターは診療科目も増え、パワーアップされて、大変頼もしく喜ばしく思っています。今後ともよろしくお願ひしたいと存じます。

横浜医療センター（旧国立病院）には実は父が20年前にお世話になり、最近はお母がお世話になっています。家族を安心してお願いできる病院がよい病院ではないかと思っています。こちらも多くの方から信頼される医院を目指してがんばっていきたくと思っています。

さとう内科クリニック 院長 佐藤導直



さとう内科クリニック

〒245-0063 横浜市戸塚区原宿4-18-7

TEL&FAX 045-853-1661

診療時間

平日（月～金） 9：00～12：00 15：00～18：00

土 9：00～15：00

休診日：日曜、祝日、第4土曜、水曜午後

診療科目：内科、小児科、アレルギー科、
呼吸器科、放射線科、循環器科、
消化器科

呼吸器外科紹介

はじめまして、呼吸器外科の坂本です。私は1987年に香川医科大学を卒業し2年間の研修後、神奈川県立がんセンターで3年間。国立がんセンターで2年間、呼吸器外科を中心に研修いたしました。1994年からは横浜市立大学第一外科に所属し、済生会横浜市南部病院、横浜市立市民病院、横浜労災病院などで勤務した後、本年4月から横浜医療センターで勤務しております。当院では呼吸器外科手術は、従来外科で対応しておりましたが、患者さんの増加と多様化するニーズに応えるため2004年4月に呼吸器外科を新設する運びとなりました。近年、日本外科学会が4つの柱となる専門医制度（心臓血管外科、消化器外科、呼吸器外科、小児外科）をうち立てたことから、呼吸器外科が確立された専門分野として認識されつつあります。呼吸器外科の主な対象疾患は、肺悪性疾患（肺癌、転移性肺腫瘍）、肺良性腫瘍、自然気胸、肺気腫、気管疾患、縦隔腫瘍（胸腺腫瘍、神経原性腫瘍など）、重症筋無力症の胸腺全摘術、膿胸、手掌多汗症、胸壁腫瘍、漏斗胸、横隔膜疾患、胸部外傷などです。現状では、呼吸器外科医が私一人であるため、外科の先生方の援助を受け、手術・術後管理などを行っています。当院では、私自身の経験から、特に胸腔鏡手術に力を入れております。胸腔鏡手術は手術創が小さく、術後の痛みが少ないことが特徴で、患者さんに優しい手術とされています。現在では比較的早期の肺癌、自然気胸、良性の縦隔腫瘍など数多くの呼吸器疾患が胸腔鏡手術で対処可能です。また当院では手術成績の向上、合併症の軽減はもとより、術後のQOL、創部の美容などにも配慮した手術を進めております。私の過去5年間の肺癌に対する胸腔鏡下肺葉切除術の術後平均在院期間は7日、自然気胸では術後2日と良好な成績を得ております。外来日は毎週金曜日の午前中ですが、それ以外の時間帯でもお気軽にご相談下さい。



呼吸器外科医長 坂本 和裕

局所麻酔法を用いた鼠径ヘルニアの手術について

鼠径部（いわゆる股のつけねの部分）ヘルニアが大多数を占めます。小児および成人の方のヘルニアにどちらも対応しております。成人の方においては、現在、世界的にメッシュ・プラグという人工物で再発を予防するという手術の方法が取られており、当科でも採用しております。メッシュ・プラグにより補強すると、手術後つっぱり感がなく、再発もほとんど心配ありません。麻酔法としては、全身麻酔、腰椎麻酔、局所麻酔があります。



外科医長 佐藤 靖郎

今回局所麻酔によるヘルニアの手術について、述べさせていただきます。局所麻酔でおこなうということ、手術中に意識がありこわいとか、痛いのではないかという印象をいだかれるかたもいらっしゃると思います。歴史的に局所麻酔によるヘルニアの手術は、術後もはっきり意識状態が保たれること、日常生活がいとめられることより全身麻酔や腰椎麻酔の困難な患者さんに適応されてきました。しかし、最近ではその麻酔法の特長より、仕事に早期復帰したい方まで適応が広がる傾向にあります。局所麻酔によるヘルニアの手術は手術中の痛みと不安感をいかにやわらげるかにかかっております。当院においては、その点を工夫して手術中も十分痛みがとれるようになっています。また、手術中に出来上がりを確認でき、手術直後から歩いたり食事をとったりでき、患者様方の好評を得ております。さらに、創についても皮下をいわゆる融ける糸で縫合しているため抜糸もいらず（抜糸の恐怖感や痛みも当然ありません）術後2日目より入浴も可能となっております。希望の方は、木曜入院、金曜手術、日曜退院もできます。また、今後日帰り手術も念頭に入れておりますので何卒御考慮のほどを宜しくお願い申し上げます。

当院における局所麻酔法による鼠径ヘルニア手術の特徴

- 1) 手術後すぐから日常生活が可能
- 2) 特殊な麻酔法を用いているので、手術中の出血や痛みが少ない
- 3) 融ける糸で縫合しているため、抜糸の必要がない

以上、当院における局所麻酔法を用いた鼠径ヘルニアについて、述べさせていただきました。ご希望の方は、当院外科外来にお越しください。

地域医療連携室から

医療技術の進歩や高齢化社会の進展で、一つの医療機関において完結型の医療を求めることが困難な現在、新しい医療供給システムといわれる 地域医療連携 の構築が求められています。プライマリー ケアーの機能が発揮できるかかりつけ医と組織医療を担う病院との上手な連携が効率的な医療の推進につながり、その結果として、質の高い医療のサービスの提供と医療資源の有効活用が可能となります。

当院の地域連携室は、連携システムを効率的に機能させて、地域の患者様、ご家族が安心して治療の継続と療養とができるよう支援する役割を目指します。

1. 業務場所

外来棟2階 地域連携室

2. 業務内容

(1) 毎日

1. Faxで送られてくる患者紹介状の取り扱い
(来院日の確認や各診療科との連結調整)
2. 紹介状持参患者の 来院報告
3. 紹介元医師の対する紹介状持参患者の 来院報告
4. 逆紹介患者票の送信
5. CT,MRI,RI,超音波、脳波の各検査及び放射線治療の来院日の確認(受付は各検査科で行なっています)

(2) 随時

1. 近隣の医師会、診療所等に外来診療担当表及び患者を紹介していただくための文書等を発送
2. 近隣救急隊への宿日直勤務表の送信
3. 各種統計、集計表の作成

(3) その他

1. 部屋の移転
6月より地域医療連携室を外来棟2階喫茶室の隣りに移転いたしました。それに伴いまして、先生方の利用できるスペースも多少広くなりました。また、お越しいただいた先生方の白衣やロッカーもご用意いたしましたので、どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。
2. 4月から小児科を365日24時間体制とし、小児救急の充実を図っております。
3. 4月から血管連続撮影装置を更新いたしましたので、ご利用下さい。
4. 4月から呼吸器外科を開設いたしましたので、どうぞご利用下さい。
5. 6月から救命救急医1名が加わり2名体制となりました。更なる救命救急医療の充実を図っております。
6. 8月から、これまでのMRI、CT等検査予約の他に「心エコー検査予約」を始めました。どうぞご利用お願いいたします。
7. 在宅医療を支援するため、専任の看護師を配置いたしました(PHS4503)。
8. ご意見、ご希望等がございましたら下記までお寄せ下さい。
以上、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

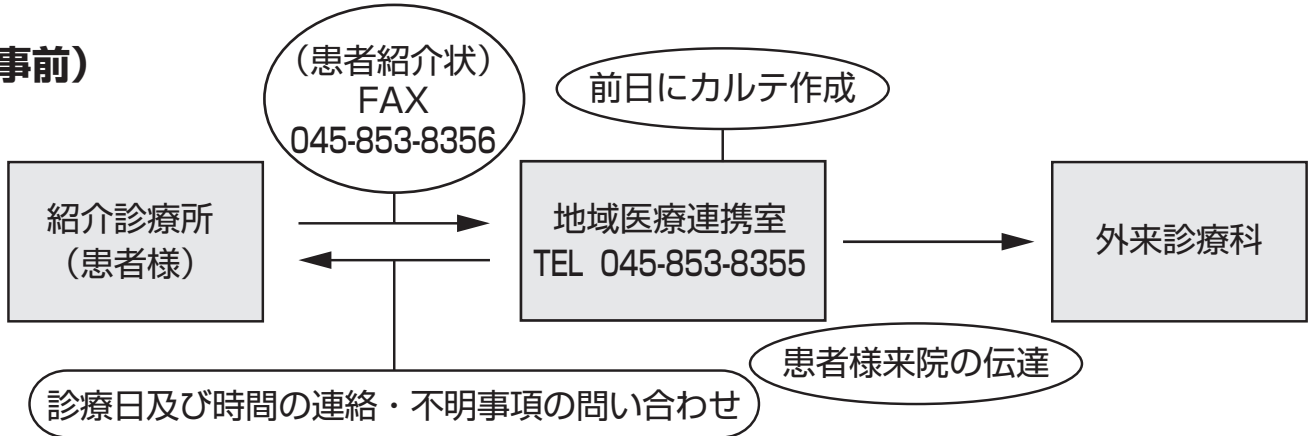
地域医療連携室

TEL. 045-853-8355
FAX. 045-853-8356

内線 (2275)

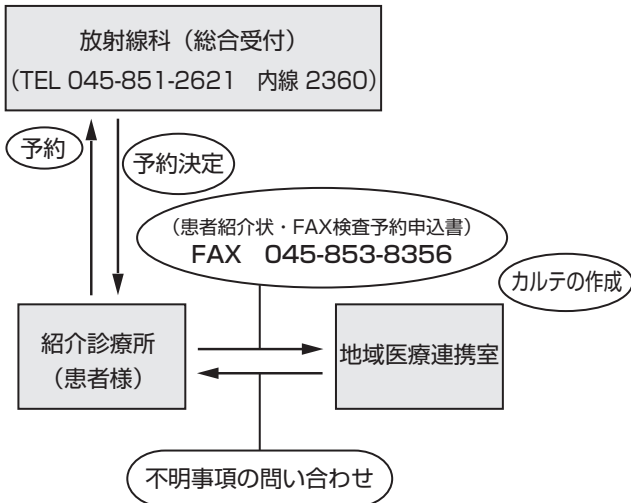
診察の予約紹介フローチャート

(事前)



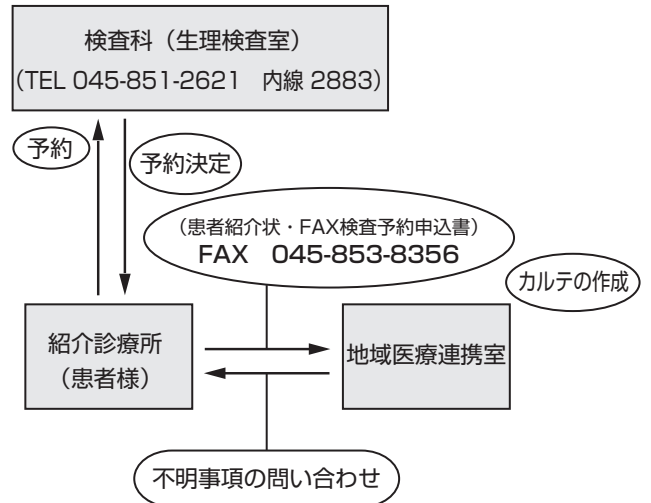
CT・MRI・RI検査予約フローチャート

(事前)



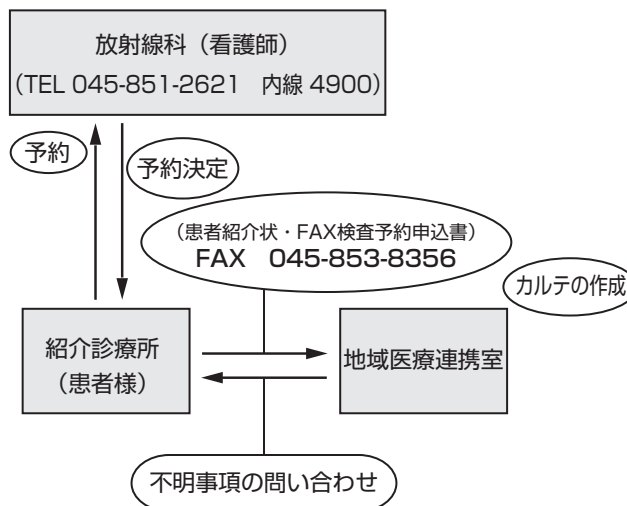
超音波・脳波検査予約フローチャート

(事前)



放射線治療予約フローチャート

(事前)



お知らせコーナー

医療安全管理室より

『確認会話』ということばをお聞きになったことがありますか。特に同姓・同名の患者さまに限らず、同姓や似通っている名前で聞き間違い、思いもよらないヒヤリ・ハット経験が報告されています。

従来は、医療者からお名前をお呼びして、ご本人の『はい』というお返事で確認していました。ところがお呼びした患者さまが、実は別人であり、会計窓口ではじめて間違っていたことに気づいたという事例が報告されるようになりました。採血、注射を中心とした医療行為を行う際には、患者さまご自身による氏名確認をさせていただくことが重要になってきています。

当院では、患者さまに『確認のためにお名前をおっしゃってくださいますか』と患者さまご自身に名乗っていただき、誤認防止のご協力をお願いしています。患者さまを知っているということと医療行為の内容確認には慎重さが求められます。入院・外来の診療現場では医療チームによる連携で診療が行われています。患者さまを間違えないための確認会話、医療行為を間違いなく行うために内容を確認する会話を意識して行うこと、それに接遇マナーを大事にすることが医療安全のためにもっとも基本的で重要なこととなります。以上のことを踏まえて、患者さま中心の安全な医療の推進のために一層努めていきたいと思っております。



中央採血処置室で



放射線科MRI室で

横浜医療センター病例検討会・研究会開催のお知らせ

西横浜整形外科症例検討会

開催日時 毎月第3木曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 日塔整形外科医長
045-851-2621 (代)

横浜藤沢消化器疾患研究会

開催日時 毎月第3月曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 小松消化器科医長・松島消化器科医長
045-851-2621 (代)

各症例検討会・研究会にご興味をお持ちの先生は、どなたでも参加を歓迎いたしますので、ご連絡下さい。

研修医紹介

新しい臨床研修制度について

医師卒後研修制度はインターン制度に代わるものとして昭和43年に制度化されましたが、今回の改革はそれ以来36年ぶりのものとなります。主旨の一つはプライマリ・ケアへの理解を深め、患者様を全人的に診ることが出来る基本的な診療能力を修得することにあります。当院では新制度での研修医として現在5名が研修中です。金澤先生、松浦先生は当院で2年間研修を行います。井上先生・千葉先生と今野先生は1年間の研修後それぞれの所属大学（横浜市大・山梨大）に戻ります。2年次の必修である地域医療研修に関しては、戸塚区医師会の先生方と戸塚区福祉保健センターにご協力をお願いしております。どうぞ宜しくお願いいたします。

(教育研修医長 椎名丈城)

研修医自己紹介



金澤 さやか（横浜市大卒）

今年5月から研修医として働き始め、早くも丸4ヶ月が過ぎました。先生方や看護師の皆さんに一から教えて頂き、採血ひとつ出来なかった私もようやく医療現場での仕事に慣れてきました。まだまだ未熟ですが、横浜医療センターでの2年間の研修を頑張りますので、どうぞよろしくお祈りいたします。



松浦 宏之（福井大卒）

こんにちは。松浦宏之（25）といます。今のところ将来は内科系と考えています。本院での研修は2年間です。みなさんご指導よろしくお願い致します。生まれも育ちも大学も福井県です。北陸出身の方、サッカー好きの方が居られたら声をかけてください。かなり喜びます。



井上 雄介（浜松医大卒）

私は浜松医大出身です。この度地元の横浜で働くことになりました。最初の2ヶ月はなかなか自分のペースが掴めず、体調を崩したあげくに虫垂炎になりopeをしたりと身をもって研修していたような思いです。しかし自分が病気になってみて改めて医師にとって患者とは何かを考える良い機会になったように思います。



千葉 秀幸（金沢大卒）

私は、東京都世田谷区の喜多見という小さな町で育ち、石川県金沢大学に進学し今回、横浜市立大学の一年目研修として当院に入りました。もともと志望は小児精神科だったのですが、実際に働き始めて今までは見えていなかった医者という職業の面白さに気づけたので、これからはいろいろ視野を広げ楽しみながらがんばっていきたくと思っています。



今野 元之（山梨大卒）

山梨大学出身の今野です。来年3月末までの予定で当院で研修を行っています。東京都出身ですが、中学から高校まで横浜市内の学校に通っていたこともあり当院での研修を選びました。趣味はスキー、ヨット、コンピュータ関係などですが、最近はなかなか暇がとれないのが悩みです。短い期間ですが、よろしくお祈りいたします。

看護部院内感染防止委員会の動き

看護部院内感染防止対策委員会委員長 菊池なほみ

近年、エビデンス（科学的根拠）という言葉をよく耳にするようになりました。特に、医療においては、治療・検査・処置そして感染対策についてもエビデンスに基づいて行われることが一般的とされています。

当院に於ける感染対策は、院内感染防止対策委員会を中心に行われていました。多くの施設でも、委員会の活動に委ねられているのかもしれませんが。

しかしながら、現場で感染問題に直面するその多くは、スタッフです。現場レベルで問題を考え、教育・啓蒙していくという感染対策を推進する目的で看護部の実働部隊を発足し1年5ヶ月が経過しました。

最初は、各部署の問題点を把握する事から始めました。

活動目標は掲げたものの各委員にしてみれば、私がすべきことは？どうすればよいかわからない等々の疑問だらけだったかもしれません。名前だけの委員会にはしたくない。委員には、何とか解決策を自らが各現場に浸透させることができるようになって欲しいそして自らの原動力で感染管理を推進するという強い意志を持って欲しいと私自身願っておりました。

輸液ラインの調査から始めた現場の状況では、あまりにも多くの接続ラインに驚き商品の整理を検討する必要性を強く感じました。ちょうど、3方活栓から感染する可能性が高いというデータもあり閉鎖式輸液回路・シユアプラグの導入を推進しました。各部署のデモを実施し今では、ごく当たり前のようになっています。

輸液ラインの固定方法にも大きく違いがあったため、統一した方法を再三検討しました。ドレッシング材の導入より1年経過したこの9月のラウンドでは、ドレッシングの貼付状態も非常に良好でしっかり管理ができているといえます。

また、ヘパリン生食の取り扱いの現状を知ることで問題点が明確となり、最終的には、既成の製品に移行することで血流感染を防止することに一役かったことになりました。とても小さなことかもしれませんが、飛躍的に変化しているといえます。

今後は、各種サーベイランスに向けた活動を本格的に実施していきます。

感染教育の講義も回を重ねるごとに、委員は目からうろこ状態の反応でしたがまずは何が問題なのか・そして改善すべきことは何かを学習することができたと確信しております。

スタンダードプリーコーションという言葉聞いて、常に自分がとるべき行動を判断でき尚且つスタッフに指導できるそんな委員が多く育つのではないのでしょうか？

感染対策の要は、スタッフの意識改革にあるといえます。どんなに良いとされること（対策・物）を推奨しても、臨床に携わるすべての人が感染に対する問題意識を持ち自分の行っていることが正しいことかどうかを考えて行動することがより大切なのです。

どんな感染対策にも、必ずエビデンスがあります。数多い書籍やレクチャーから自分たちの施設で必要なことを検討し、実践していくことが重要なのです。

学校だより

看護学校 教員 小杉 葉子

当看護学校は、横浜医療センターの附属養成所として、同敷地内にあります。3年課程の学校で、現在約120名の学生が勉学に励んでいます。学校の専任職員は教育主事1名と教員5名、教務助手1名そして事務助手1名の8名です。

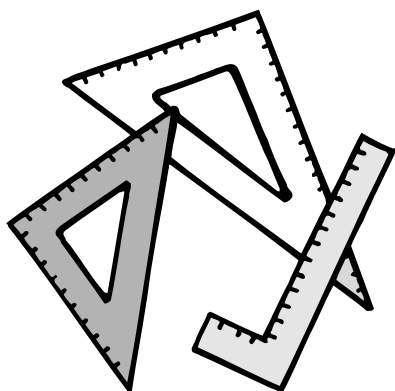
当校では、看護師として必要な知識・技術・態度を教授し、現在社会の中で求められている医療従事者としての看護師になれるような人材を育成しています。学習の具体的内容を挙げますと、人間の身体の構造や機能、病気になるとどうなるかななどを学びます。そして、病気で日常生活が一人で送れない人への援助として、



て、清拭・洗髪・排泄の援助、患者様の体調を把握するための体温・脈拍・血圧測定 of 技術、診療の補助技術としての注射・採血等の技術の練習を行っています。母体病院であります横浜医療センターでの実習では、病院職員はじめ患者様の暖かい支援の下学習をさせて頂いております。これらの学習を積み重ねて卒業ですが、その前に看護師国家試験という大きな壁を乗り越えて看護師としてのスタートをしています。



写真は学内での学習場面の一コマです。



時節の AUTUMN 病 気

生活習慣病について

循環器科医長 岩出 和徳



最近、生活習慣病という言葉をしばしば耳にします。一時代前は成人病と呼ばれていましたが、厚生省の指導で平成8年からよりわかりやすく生活習慣病という呼称が用いられるようになりました。生活習慣病とは、読んで字の如く、悪い（つまり体の負担になる）生活習慣により引き起こされる病気のことです。日本人の三大死因は、ガン、脳卒中、心臓病です。脳卒中と心臓病の多くは、加齢や遺伝的素因などの影響ももちろんありますが、ゆがんだ生活習慣（不適切な食生活、運動不足、喫煙、過度の飲酒、ストレスなど）が関係していることがわかってきました。また、とくに症状もないのに健康診断などではじめて指摘される高血圧、糖尿病、高脂血症は生活習慣病の最たる疾患で、脳卒中や心臓病などの基礎になります（医者の間では、危険因子と呼んでいます）。

脳卒中や心臓病になったら大変です。また再発したらもっと大変です。予防できればそれに越したことはありません。

そこで私たちは何を注意すれば良いのでしょうか？

自分の生活習慣、ライフスタイルを冷静に考えてみてください。

第一段階は、毎日の三度三度の食事です。美味しいものを腹一杯食べていませんか？昔の人は良く言ったものです、腹八分目と。肥満は生活習慣病の予備軍です（体重は？）。食事のバランスはどうですか？塩分の摂りすぎにも注意！わからないときは、主治医に相談してください。やさしい栄養士さんを紹介します。

次は、運動不足が気になりませんか？喰っちゃ寝、喰っちゃ寝では困ります。わざわざはちまきをして走り回れということではありません（そんなことをしたって、長続きしません）。まず、歩くこと！やや早歩きで、バス停を一駅くらい歩くことから始めてみませんか？万歩計で一万歩とも言われていますね。ストレス解消にもなります。

酒・タバコはどうですか？ストレスの多い現代です。酒は百薬の長（私もこの言葉に甘え、飲み過ぎになりがちですが）、適度な飲酒は禁酒の必要はないと思います（適度とは、日本酒なら1.5合くらいまで）。タバコは絶対ダメ！ガンばかりでなく、脳卒中・心臓病との関係も明らかにされています。思い立ったときに禁煙の時です。

高血圧、糖尿病、高脂血症は、サイレントキラー（沈黙の殺人者）とも呼ばれ、症状が出にくい疾患です。年一回の健康診断を上手に利用してください。

「今は症状がないからいいんだ」「病院に通い、薬を飲んでいるからいいんだ」ではなく、自分の生活を正し（ライフスタイルの是正）、足りないところを医者を手伝ってもらい、重篤な病気にならないようにする。これが生活習慣病の予防の第一歩であり、基本的治療方針です。確かに若いときからの習慣を変えるのは大変かもしれませんが、しかし、病気にならなくてすむなら頑張りがいもあります、また、頑張っただけの成果が得られる病気が生活習慣病です。

そろそろ馬肥ゆる秋！おいしい秋の味覚が食卓をにぎわす季節です。食べ過ぎに注意！

また、スポーツの秋です。適度な運動を心がけてください。体重測定も忘れずに！

職 場 紹 介

●今回は小児科と薬剤科の紹介です。

小児科

小児科医長 伊部 正明

小児科は、『こどもに優しい医療』を目指し、地域の医療機関と連携しながら新生児期から思春期までの小児科全般にわたる疾患を対象に外来および入院診療をおこなっています。肺炎、気管支炎、喘息発作、胃腸炎、脱水症、湿疹などの小児科一般診療に加え、発達（未熟児）、感染免疫、神経、腎、などの専門外を開設し、専門医を擁して良質な医療を提供しています。さらに地域のこどもたちの健康を願い、乳児健診や麻疹、風疹、インフルエンザなどの予防接種にも積極的に力を注いでいます。今年4月から地域の医療機関と連携しながら365日24時間体制の小児救急医療をスタートしました。1日の平均外来患者数は60人、年間入院患者数は700～800人で、紹介入院数が約50%を占めています。入院児の主な疾患は、気管支喘息発作、急性肺炎、感染性胃腸炎、尿路感染症、川崎病、けいれん性疾患、髄膜炎、脳炎脳症、麻疹、インフルエンザ、新生児（未熟児）疾患などです。

戸塚区の開業医の先生方と年3回（3月・7月・11月）の小児疾患研究会を開催しフェイス・トゥ・フェイスの顔の見える病診連携を積極的に進めています。

スタッフは伊部正明医長☆、福山綾子医師☆、友野順章医師☆、渡辺由佳医師☆、富田規彦医師☆、石田華医師☆の常勤医6名（写真）と非常勤医3名です。

外来診療は、一般外来：月～金の午前中、伊部=月～金、福山=火・木、友野=月・水、渡辺=火・金、富田=木・金、石田=月・水と専門外来（午後予約制）：月=発達、感染免疫、喘息、肝臓、火=感染免疫、喘息、夜尿、肝臓、水=予防接種、木=乳児健診、腎、金=喘息、神経です。



薬剤科

当院薬剤科は薬剤師13名、助手1名、事務1名の計15名で構成されています。

主な業務内容は、調剤、製剤、医薬品管理、試験検査、医薬品情報、病棟業務、受託研究・治験管理業務等を行っています。

1. 調剤室

処方せんに基づいて、お一人お一人のためのお薬を作るのが薬剤師の基本の仕事です。現在では、調剤もかなり機械化されましたが、飲み合わせやお薬の量等、やはりそれぞれの要所に薬剤師の目でチェックし、患者様に安全にお渡ししています。

2. 製剤室

各種消毒薬を実用濃度に希釈し滅菌したり、市販されていない特殊なお薬を、治療上必要とされる患者さまのために医師からの依頼に応じて作っています。また、無菌環境の中で注射薬を混合する必要な患者様に対しても調製を行なっています。

3. 医薬品管理室

患者様に処方される薬が効率よく安全に使用されるために、適正な在庫の確保、良質な医薬品の確保、品質の管理など、医薬品の購入から患者様へのお渡しするまでの薬の管理を行っています。また、救急災害時に備えて、備蓄薬品の管理も行っています。

4. 試験検査室

強心剤や抗生物質など、患者さん個々により医薬品の投与量が異なり、副作用が出現しやすいような薬について、血液中の薬物濃度を測定してモニタリング（監視）しています。

5. 医薬品情報管理（DI）室

医療の中で、医薬品に関する迅速かつ確かな情報は、よりよい医療を行う上で不可欠であり、これらの情報を収集、検討、保管、医療スタッフへ伝達するなどの業務を行います。

6. 病棟業務（服薬指導）

患者さまにお渡ししているお薬を有効に、安全、正しく使用して頂けるよう、お一人お一人のお薬の効果・飲み方・副作用や飲み合わせ等について、解りやすくお話しています。

7. 受託研究・治験管理業務

市販される前の医薬品の有効性や安全性を確かめる試験、市販され一般的に使用されるようになった医薬品の評価をする試験、新しく開発された医療用具の有効性などを検討する試験などの管理をしています。



今後、われわれ病院薬剤師は、入院患者の皆様に対する薬歴の管理や、服薬指導、あるいは注射薬の調整、特殊製剤、無菌製剤の調整など病院薬剤師本来の業務に振り向けてまいります。また、医薬品に関するあらゆる情報を収集し整理して、医師、看護師をはじめとする医療従事者へ提供し、医薬品の適正な使用のために努力してまいります。

“○○はいい！”は 本当に健康にいいの？

No.2 いわゆる健康食品編

栄養管理室
主任栄養士 馬場 真佐美



前回、ご説明した“保健機能食品”については、基準をクリアしていればとりあえずは、安心ということになりますが、いわゆる健康食品と称されるものはどうでしょうか？最もらしい宣伝文句をうのみにせず、ひとまず疑うことが自己防衛の第1歩です。食品では、薬事法の規制があって、「○○が治る」「○○に効く」という医薬品的宣伝はできないことになっています。もしそういう宣伝をみかけたら法律違反ですし、絶対に信じないほうがよいでしょう。

もっとも注意しなくてはならないことは、健康食品としての“エビデンス”をしっかりと見極めることです。エビデンスとは、「ある医学的事実に対する臨床的、学問的な証拠、裏付けです。」簡単にいうと含まれる何らかの成分の効能がしっかりと科学的に確かめられたかどうか、ということです。いわゆる健康食品のエビデンスの実態は、試験管レベルであったり、動物実験レベルであったりして人を対象にしていないことが実状なのです。人を対象に臨床試験が行われたかどうかは重要なチェック項目です。また一見信じられやすいのが、“学会発表しました。”という華々しい宣伝がありますが、大きな声ではいえませんが、栄養関係の学会は、会員であれば基本的に誰でも口頭発表ができます。したがって学会発表したというだけではエビデンスにはなりません。むしろ口頭発表のみの場合では、信頼性が低いとみた方が無難でしょう。論文審査のある学会誌や学術誌に掲載され科学的、学問的評価を受けてはじめてエビデンスとして認めることができます。栄養学の進歩により健康増進を促す成分が発見されたり、研究されたりすることは、大変有益なことです。本当に健康に役立つのであれば喜ばしいことです。健康食品については、情報を賢くとりいれてあくまでも補助的なものと考えたほうがよさそうです。

前回同様、やはり健康は食生活の見直しからが早道なようです。

行事等紹介

第5回救急・災害医療フェア

救急・災害医療フェアを開催して

救命救急センター長 山本俊郎

「天災は忘れた頃にやって来る」と言われておりますが、今年は異常な猛暑、浅間山の噴火や地震の多発など異常な現象が続き何やら不気味な感じがいたします。その様な中、9月8日に大正救急をはじめに戸塚消防局の多大な御支援を受け、横浜医療センターにおいて救急・災害医療フェアを開催させていただきました。折りしも、台風18号一過の晴天ではありましたが、風の強い1日でした。このフェアでは平成12年から4年間にわたり、救急隊や医療機関の視点から議論を続けてまいりましたが、今回は救急・災害医療の原点に立ち戻り、市民の皆様が直接参加できる催しとして立案し、心肺蘇生法の実演、救急患者の搬送に使用した機材・救急車の展示や非常食の展示、試食などを行ないました。多数の皆様にご参加を頂き、ありがとうございました。あなたの大切な方が心肺停止に陥った時、頼りになるのは救急救命士や医師ではありません。あなたの人工呼吸や心マッサージこそが大切な人を救うことになるのです。是非、これを機会に心肺蘇生法を身につけて頂くことを祈念しております。



救急車展示コーナー

最後に、平成15年度横浜市の救急件数は153,237件あり、3分26秒に1回救急隊が出動しております。戸塚区は18区中7番目に多い区です。救急件数の増加に伴い、経費の増加と直近の救急隊が出払い、他の救急隊が出動せざるを得ない状況が起こりつつあります。皆様の賢明なる御判断のもとに、救急車の利用をお願い致します。



非常食展示・試食コーナー

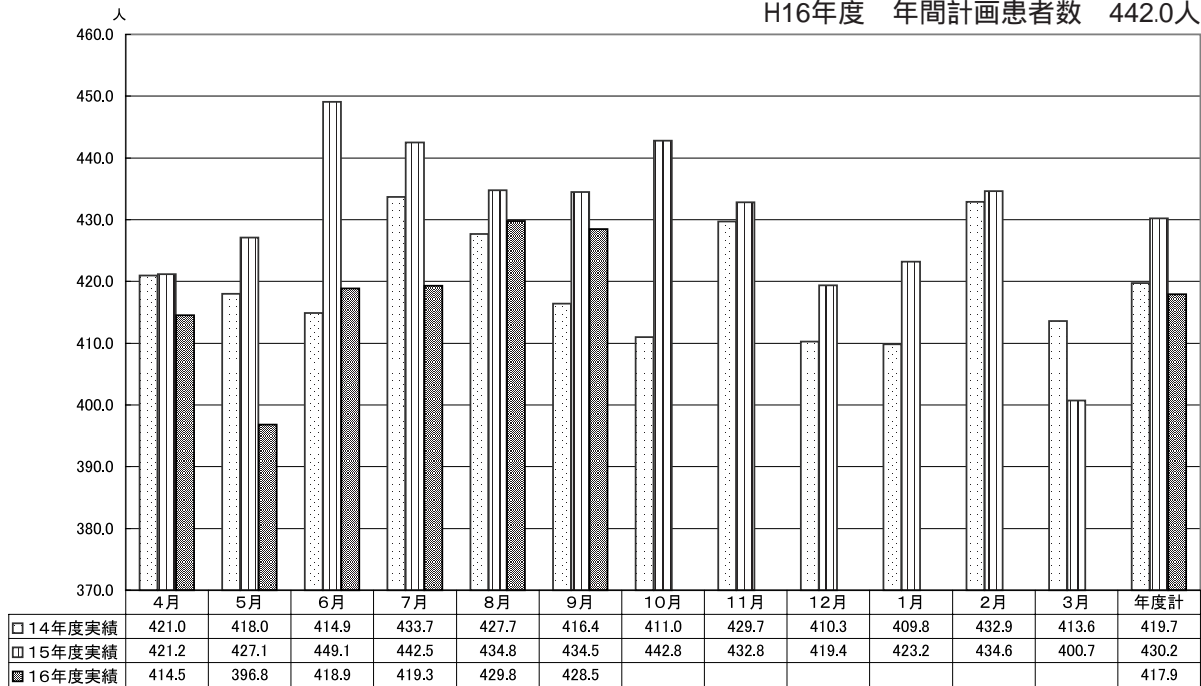


心肺蘇生法の実演

患者数の動向

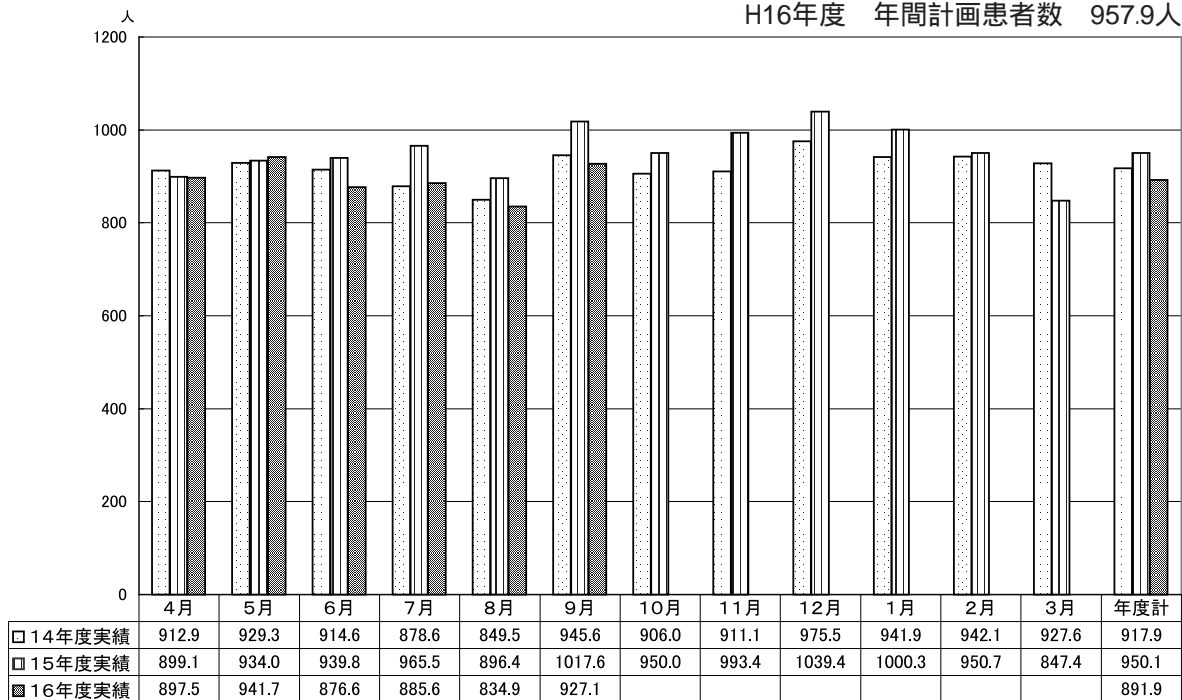
入院患者数年度別月別比較（H16年9月30日現在）

H16年度 年間計画患者数 442.0人



外来患者年度別月別患者数（H16年9月30日現在）

H16年度 年間計画患者数 957.9人



編集後記

私の趣味はゴルフです。本格的にはじめて10年になりますが、やれどやれど全然進歩せず、最近始めた時よりスコアが悪くなっている感じがします。たまのコンペで友達がパーティーを決めたりすると負けず嫌いの魂がフツフツと湧いてきます。そんなことを繰り返していると、ある日突然「これだ」とひらめくことがあると思うんです。たぶんこのひらめきを期待しこれからも金をつぎこむこととなるでしょう。皆さんも何でもいいですから続けていけばありますよ、開眼するときに。あきらめず期待して「これだ」を求めてみませんか。

編集委員 福原栄二

診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考
総合内科・初診	交代医師	笠木 陽子	高木 佐知子	大野 美香子	大野 美香子	△:午後のみ診療 ▲:紹介状持参の方のみ
内 科	高木 佐知子	松井 英恵	宇治原 誠	宇治原 誠	笠木 陽子	
神 経 内 科	上木 英人	△山口 滋紀	検査日	上木 英人	検査日	
呼 吸 器 科	榑原 基史	検査日	村上 修司	検査日	榑原 基史	
消 化 器 科	交代医師	塚田 百合子	松島 昭三	清水 健	小松 達司	
		△小松 達司(肝)	岸野 真衣子	高山 敬子		
循 環 器 科	青崎 正彦	加藤 丈二	田中 直秀	▲田中 直秀	岩出 和徳	《循環器科新患当番医》 (月)第1.第3.第5.[鈴木]・第2[田中]・第4[岩出] (火)田中・(水)岩出・(木)田中[岩出]・(金)加藤
	巽 藤緒	岩出 和徳			鈴木 豪	
アレルギ科	青木 昭子	検査日	検査日	△武田 由希子	武田 由希子	
心 療 内 科	検査日	久保田真司・上原久美	検査日	小澤 篤嗣	検査日	完全予約制。受診希望の方は事前にお問い合わせ下さい。 表は再来担当医初診医は原則別の医師となります。
精 神 科	久保田 真司	小澤 篤嗣	上原 久美	久保田 真司	小澤 篤嗣	
	加藤 英之					
小 児 科	伊部 正明	福山 綾子	伊部 正明	伊部 正明	渡辺 由佳	
	大濱 有子	渡辺 由佳	石田 華	福山 綾子	富田 規彦	
	石田 華	伊部 正明	大濱 有子	富田 規彦	伊部 正明	
外 科	牧野 洋知	西山 潔	◇大滝 修司	土井 卓子	◆高橋 俊毅	◇:第2・第4水曜日 予約制 ◆:予約制
	佐藤 靖郎	長嶺 弘太郎	○若杉 純一	大田 郁子	◆山本 俊郎	
		土井 卓子			坂本 和裕	
		★星 香奈子				○:毎週予約制 ★午後診療のみ
呼吸器外科					坂本 和裕	
整 形 外 科	三谷 秀俊	日塔 寛昇	三谷 秀俊	日塔 寛昇	日塔 寛昇	(受付時間)初診・予約外再診とも 8:30～10:00
	樋口 三郎	三谷 秀俊	藤原 豊	樋口 三郎	樋口 三郎	
	藤原 豊	桜井 梨江	大関 信武	桜井 梨江	大関 信武	
形 成 外 科	高瀬 税	手術日	△高瀬 税	手術日	高瀬 税	△:手術日のため午前のみ
脳神経外科	急患のみ (手術日)	▲ 交代医師	竹本 安範	急患のみ (手術日)	藤津 和彦 市川 輝夫	▲ 第1・3・5週(火)・松永 成生 第2・4週(火)・宮原 宏輔
心臓血管外科	東館 雅文	手術日	検査日	大野 英昭	東館 雅文	
皮 膚 科	坪井 廣美	坪井 廣美	坪井 廣美	坪井 廣美	坪井 廣美	
	田辺 健一	田辺 健一	田辺 健一	田辺 健一	田辺 健一	
	山本 都美	山本 都美	山本 都美	山本 都美	山本 都美	
泌 尿 器 科	本田 直康	本田 直康	手術日	石川 弥	本田 直康	
産婦人科	婦 中村 秋彦	外村 光康	中村 秋彦	(新患のみ)	糸数 功	
産 産	紅露 有子	(新患のみ)	外村 光康	糸数 功	中村 秋彦	
眼 科	設楽 幸治	設楽 幸治	設楽 幸治	設楽 幸治	急患・新患のみ(手術日)	(受付) 初診・予約外再診とも 月～木曜日 8:30～10:00 新患のみ 金曜日 8:30～9:30
	中矢 かおり	中矢 かおり	中矢 かおり	中矢 かおり		
耳 鼻 咽 喉 科	山田 昌宏	山田 昌宏	手術日	花村 英明	山田 昌宏	
	花村 英明	花村 英明		花村 英明	花村 英明	
放 射 線 科	栗原 須生美	金原 一弘	日下部 きよ子 (甲状腺外来)		金原 一弘 ※注①	※注①月・金曜日 8:30～11:00【完全予約制】 ※注②火曜日13:30～15:00【予約は内線4900・看護師まで】 ※注③診察日は放射線科にお問い合わせ下さい。
歯科口腔外科	塩入 重彰	塩入 重彰	手術日	塩入 重彰	塩入 重彰	新患(紹介状又は、診療情報提供書を持参して下さい)【可能な限り】 新患は、火・木曜日の午前8:30～11:00まで。再診(完全予約制)。
	丸山 貴子	丸山 貴子		丸山 貴子	丸山 貴子(午前のみ)	
小児科	発達(福山)	感染免疫・ぜんそく (伊部)	予防接種 (交代医師)	乳児検診 (交代医師)	喘息 (石田)	
	感染免疫・ぜんそく (伊部)	腎(中村) ※第一週			神経(筑丸) ※第2週	
外科			癌化学療法外来 (午前診療)	乳癌検診 ※注④		※注④ 横浜市乳癌検診の受付: 13:30～15:00
	癌化学療法外来	乳腺外来 (午後診療)	ストーマ外来 ※第2週	癌化学療法外来		※注⑤担当医:外科土井、大田・内科青木・皮膚科坪井・婦人科紅露 女性のための総合診療をめざす外来です。 完全予約制ですので電話で予約して下さい。婦人科は非常に混雑しているため受診を希望される方は、予約の際に必ず申し出て下さい。心療内科受診を希望する方は、女性診療外来を受診して予約を取る必要があります。お手数をおかけしますが、よろしく願い致します。
専門外来 (午後のみ)	女性 診療 外来	※注⑤				
	脳外		脳ドック (要予約)			
	産婦	母親教室		母乳外来		
	耳鼻	補聴器外来	アレルギー外来	補聴器外来	学童外来	
	痛癢外来					
	アルコール				交代 ※注⑥	※注⑥ 第2・3・4・5週:米田 13:30～ 完全予約制
	循環	ペースメーカー外来 ※注⑦				※注⑦ 第2・4週火曜日午後 必ず事前に連絡して下さい。

初 診 受 付:平日8:30～11:00
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり
再診(予約外)受付:平日8:30～11:00
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり
休 診 日:土曜・日曜日・祝日・12月29日～1月3日

急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月～金 8:30～17:00)
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)
FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分が変わ箇所となります。ご確認ください。

《表紙》

第5回救急・災害医療フェア

(写真右)

戸塚は江戸時代には東海道の宿場として栄えており、旅籠の数も小田原に次ぐ所で江戸より10里、小田原まで10里と中間点にあるため、江戸を朝立ちして戸塚で泊まり翌朝小田原に向かって出発するので大変賑わった町でした。

又、現在の戸塚消防署とスルガ銀行戸塚支店の間は大商店が立ち並び、旅籠や遊廓等が点在していました。

